

津呂の駄場とヤブツバキ

ヤブツバキは冬に咲かせる鮮やかな深紅の花が美しく、昔から多くの人々に親しまれてきた。五島列島（長崎県）や伊豆大島（東京都）など、ジオパークに取り組む地域には、ヤブツバキを地域の象徴としているところがある。

この土佐清水ジオパーク構想においてもヤブツバキは地域の象徴として重要な位置を占めている。足摺岬にはおよそ6万本のヤブツバキが生育しているとされ、岬先端部のヤブツバキ林は青い海にそびえる断崖や白い灯台とともに、この地域を代表する景観となっている。

ヤブツバキは人々の生活とも関わりが深い。岬先端部のヤブツバキ林は、薪や炭、建築材料として雑木や竹を切り出すときにツバキだけ意図的に伐らずに残したためにできたと言われる。また、足摺半島東側の津呂地区ではヤブツバキを主とした生垣が築かれ、特徴的な景観を形成している。のどかな農村風景の中にそびえる緑色の壁は、強風から家を守るための防風林の役割を果たしている。近くで見るとなかなかの迫力だ。樹種はヤブツバキをはじめとして、ハマヒサカキ、ウバメガシ、シャリンバイ、トベラなど、地元で自然に生息する木々だ。木々の樹種や混ざり具合、高さ、手入れの仕方など、ひとくちに生垣と言ってもそれぞれの家で個性があり、見ていて飽きない。腰高の生垣の上に芋を並べて干している家もあれば、3メートルを超える

生垣で家の周りをすっぽりと覆い、入り口だけをトンネルのようにくり抜いている家もある（写真1）。

津呂地区は足摺半島では珍しい平地に位置した集落だ。遥か昔、海の底で波に洗われ平らになったこの土地は、海水面の変化や大地の隆起によって、現在では海拔50mほどの高さにある。空から見ると、山から海に向かってテーブルのように張りだした土地の形がよくわかる（写真2）。このようにしてできた平地は「駄場」と呼ばれ、山がちな土佐清水では貴重な生活の場だ。津呂地区でも古くから田畑が開かれ、人々の生活が営まれてきた。一方で、開けた駄場の上を吹き抜ける強い風は、津呂の人々にとって時にやっかいなものだったに違いない。台風襲来時には瞬間最大風速30mを超えることもあるこの地で暮らすための先人の知恵が、津呂地区を象徴するヤブツバキの生垣なのだ。

森口夏季（ジオパーク専門員）



津呂の駄場は海成段丘という地形。空が近くて気持ちいい場所ですね。

▼写真1



▼写真2



土佐清水ジオパーク構想に関わるアンケート

土佐清水ジオパーク推進協議会では、皆さんがジオパークをどのように捉えているのか、そして、これから皆さんと一緒にジオパークでどのようなことができるかを把握するため、アンケートを実施しています。ぜひ、多くの声を私たちにお寄せください。スマートフォンをお持ちの方は、下のQRコードを読み込んでお答えいただけます。

このほか、アンケート用紙を竜串ビジターセンターにも設置しています。

▼アンケートフォーム URL
<https://forms.gle/bw4JrBXH9JawZXmcA>

アンケート実施期間

令和2年11月30日(月)
～12月25日(金)



土佐清水の
清水さば



押し寿司づくり体験 参加者募集!



清水さばを丸ごと楽しめる
ジオガイドツアーを特別価格でご案内!
この機会にぜひ漁師町清水の魅力を
再発見してみてください!

日時	12月5日(土) 10:00～
定員	5名(先着順)
参加料	1,000円/人
集合場所	高知県漁協清水統括支所前
実施者	土佐清水ジオの会
申込先	竜串ビジターセンターうみのわ 87-9500

